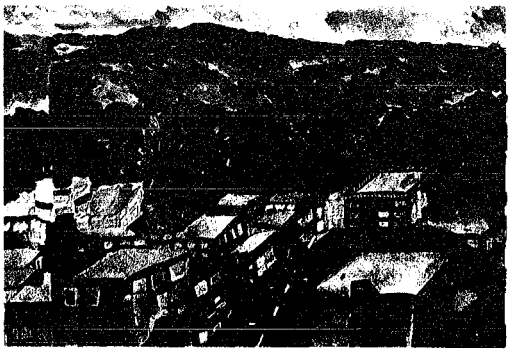
ボクらの描いた未来のにいがた



自然を大切に

野口景子（有明台小6年）

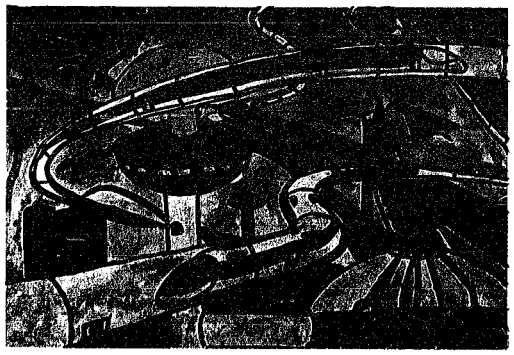
どんどん時代が変わるたびに、文明もしだいに進みそれにつれて私たちの生活もゆたかになるけれどもまた、そのためにいろいろな公害がでてくるのも大きな問題だと思います。

交通が発達するにつれてそれぞれ田舎と都会の生活もあまりかわりばえがしなくて、みんなが同じ生活になってしまえば、私は、なんとなくつまらない感じがします。

まだまだ新潟には自然がありません。

新潟なら、まだおそくはありません。

みんなで自然をなくさないように未来を考えていくようがんばろう！



市の中心に子どもの国を

風間衛（長嶺小6年）

新潟市のまん中に、こんな子どもの国があったらすばらしいと思う。

まず、空中をとう明のパイプが曲線をえがく。その中をジェットコースターが大ぜいの子どもを乗せて、時速五百キロメートルで走る。

地上には、スポーツセンターやゲームセンターの高いビルがある。そのとなりには、ドームがあり、その中では、ドングリカーが組み立てられ、ベルトコンベアーで運ばれている。

空には、鳥の形をした飛行機が空をゆっくり飛ぶ。毎日、この子どもの国に子どもが大ぜい集まる。ニュースを聞いて、遠いところからもやってくるだろう。

いこいの村があったらなあ

井海伴美（松浜小6年）

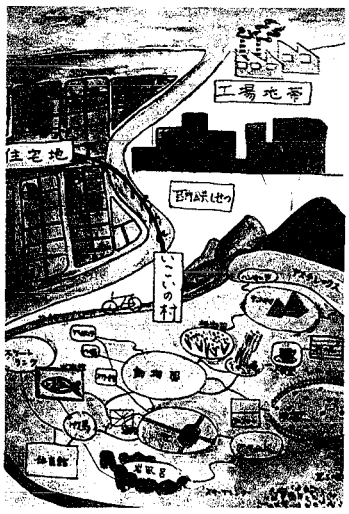
ぼくの考えた未来の新潟市は、今、約人口四十二万人だが、人口を百万人にふやす。

新潟西港は信濃川がはこんでくる土しゃで港があさくなり、外国からくる大きな船が入れないので新しい新潟東港ができたが、ぼくの考えだと、外国からくる船のつみ荷は全部東港におろされる。それにより東新潟地区は工場がたくさんでき、工場地帯になる。そのはんたいの西新潟地区は、住民が住む団地があちこちにつくられ、そこから工場へかよう。

町中のようすは、ビルがたちならび、ビルとビルの間をくぐりぬけるようなモノレールができるだろう。

ほかにも、シーサイドラインの所から東新潟地区まで、海がんぞいに、本のはば広い道路とモノレールができる。新潟駅の下に西ぼりロードみたいな地下商店ができたりする。

人口がふえればヨットなどの自家用の船をもつ人もいるので、海岸にヨットハーバーを作る。



いろいろな球技場はもちろんのこと、ソール、スケート場、アスレチック、テント村やバンガロー、池やしばふも広々としています。

村の周囲には大きなサイクリングコースもあって、車や人の心配もなく、思うぞんぶん走れます。この町の中は車はいっさい侵入禁止です。いつも私達が生活している地帯とはまったくの別世界で、ここへ行くにはモノレールに乗って行くのです。

工場も今、市内のあちこちにありますが、住宅地とはなれた所へ一か所にまとめたらよいと思います。

官庁や公共しせつ、会社も、区域にして、市内をそれぞれの目的別にまとめたら、もっと便利で楽しい新潟になるのではないかと思います。

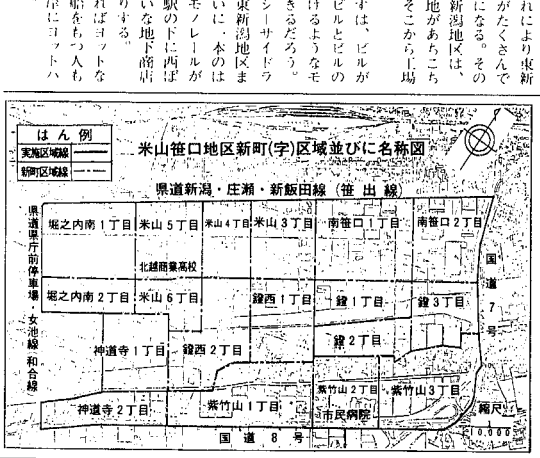
町中にモノレールを

熊谷修二（小瀬小5年）

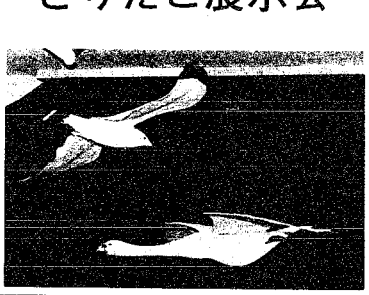
住居表示の告示

米山・笹口地区の住居表示をするために、実施区域内の町（字）の区域と名称変更について、住居表示に関する法律にもとづいて告示を行いました。

告示は、一月五日から二月四日まで、市役所本庁舎と各地区事務所、各連絡所の掲示場で掲示します。



とりだこ展示会



市教育委員会、市社会福祉協議会などの後援で、とりだこ展示会を次のとおり行います。展示されるたこは、市の公民館講座などでつくられた百点、なお展示期間中は作り方の実演も行います。

期間 一月三日～同八日、

会場 大和百貨店